

四姑娘山麓の長坪村は2008年5月の大地震で大きな被害を受けた時に'わんりい'の皆様を始めとする多くの方々から電気毛布等の援助を頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。

その後この長坪村に政府は多額の援助資金を投入して復興を急いでいましたが、今年(2010)11月までにほぼ工事を終えて見違えるように綺麗な観光を志向した家並みの集落を作りあげました。そして12月3日には完成のお祝いも行われました。

日本のNPO等から援助資金を受けた新しい村の診療所も実現しました。この診療所は当初村が自力で建てる計画でしたが、色々な協議を経て政府が建築資金を全額拠出して建てた村の総合庁舎の中に規模を縮小して収まる事になりました。そのため診療所は診察室とベッドルームの2部屋だけに縮小されました。政府は町に改築して建てた合同の日隆救急医院・日隆鎮衛生院を主として、村の診療所を補助手段にする意向です。

現在、診療所に薬やベッド等の医療機材の一部が搬入され開所していますが、医者は日隆鎮衛生院から週に一日来ているだけです。村長の話に拠りますと、今年夏に赴任予定していた医者の養成に手間取っていて赴任は来年(2011)夏に延期されるそうです。今後更に酸素吸入器や高額の薬等も揃えて、登山客にも高山病等への応急医療サービスを提供する事になっています。

診療所の建築資金を政府が全額拠出したため、日本

のNPOが寄贈した約3万元は酸素吸入器や薬やベッド等の医療設備を整える資金として使われ、アメリカの基金が寄贈した6万元余りは返却する事になりました(アメリカの基金は他の困っている場所へ廻す意向です)。

急激な経済発展と豊富な地震復興資金を背景にした状況の変化は、外国からの善意の援助の在り方に大きな影響を及ぼしています。前述のアメリカの基金のトップも、この状況変化が地震に関係ない地域でも生じていて援助活動に大きな変化をもたらしていると言っています。



写真2 村の総合庁舎：観光開発を意識した3階建て約240m²の作りで、中に村役場や公安派出所や旅行案内所や診療所等が有ります。

下の写真は、地震発生直後の【写真2】と同じ場所です。テントを張ってある広場が整備され、12月3日の町並み完成のお祭会場になりました。両者を並べてみると日隆の街の変貌振りがよく分かるかと思ひます。

↓2008年5月、四川大地震直後の上の写真と同じ場所の様子

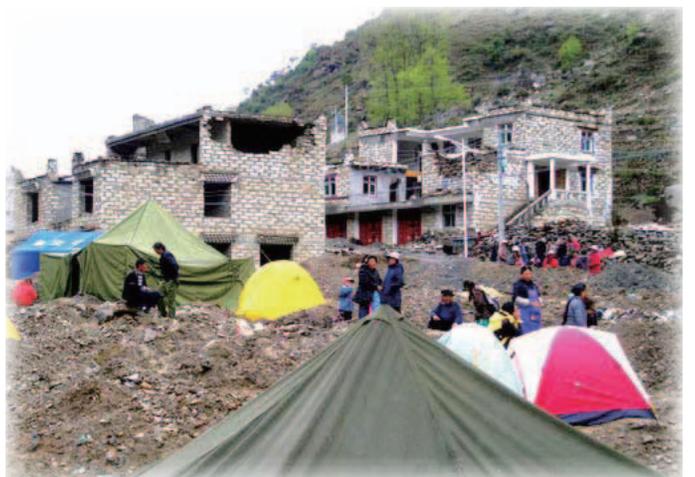


写真1 新しい集落の表通り：成都の建築事務所がチベット風に設計した家並みで、10年前には考えられなかった様相です。家の建築にも外装にも多くの政府資金が投入され、村人は大喜びしています。



写真3 12月3日、民族衣装の晴れ着を着て、新しい町並み完成のお祝い会場向う人たちが賑わう表通り



写真4 完成のお祝い：広場での踊り



写真6 診療室：薬棚や寝台が置かれたベッドルーム。



乡村医疗站

写真5 実現した村の診療所「乡村医疗站」の表札の下で喜ぶ村長

右は、二〇〇七年にユネスコ世界自然遺産として登録された、中国四川省ジャイアント・パンダ保護区一帯で、現地の保護活動をしている大川健三氏（四姑娘山自然保護区管理局・特別顧問）から、「わんりい」の皆様へのお年賀状です。

